

会

次代へ、革新へ、
健康ビジネスの未来へ

健康ビジネスサミット

う お ぬ ま 会 議

2018

2018.10.24[水] 10:30~18:15 会場 UOSHIN

■ 主催/新潟県、一般社団法人健康ビジネス協議会 ■ 共催/公益財団法人にいがた産業創造機構



健康ビジネス連峰政策

○オープニング [10:30 ~ 10:45]

主催者・来賓挨拶

○基調講演 [10:45 ~ 11:45]

演題 / 「食品の機能活用による健康長寿社会実現への取組」



講師 / 日本水産(株) 取締役 常務執行役員 ファインケミカル事業執行 関口 洋一 氏

1980年代から、食品が持つ機能性を健康の維持・増進に活用しようという機運が高まり、「特定保健用食品」や「機能性表示食品」などの制度が生まれました。これら制度の課題とニッスイのEPA開発の歴史や現在の取組について、健康ビジネスを取り巻く環境や製品開発の苦勞、ヒントなども交えながら、健康寿命延伸の実現に重ね合わせて紹介します。

【略歴】

1957年新潟県旧両津市生まれ。1979年東京大学農学部水産学科を卒業し日本水産(株)に入社。入社後3年間北洋部にてベアリング海での母船式スリミ事業に従事した後、魚油に含まれる脂肪酸EPAの持田製薬(株)との医薬品共同開発に携わり、1990年に閉塞性動脈硬化症の新薬として承認を受ける。以降もファインケミカル事業を担当し、2015年より現職。

また、業界活動としては、2011年から6年間、(一社)健康食品産業協議会会長を務め、その間、機能性表示食品制度の2度の検討会に業界代表として参画し、本制度の立ち上げに関わった。

○ビジネスセミナー [13:00 ~ 14:15]

主催 新潟県・(公財)にいがた産業創造機構

「地域資源を活用したヘルスケアビジネスの取組」

地域資源を活用したヘルスケアビジネスが活発化する中、弘前大学が開発した技術を用いて、サケの鼻軟骨から抽出したプロテオグリカンを全国へ発信している青森県。県内外の企業が参画する「あおもりモデル」の取組から、地域資源の活用とビジネス展開のヒントを探ります。

○講演1「青森発機能性素材「プロテオグリカン」を活用した産業の創出」

講師:青森県商工労働部新産業創造課
ライフノベーション推進グループ 主幹 秋元 剛 氏

○講演2「故郷の素材を宝に!」

講師:(株)ラビブレ 代表取締役 三浦 和英 氏



○一般向けセミナー [13:00-14:15]

主催 新潟県

「お腹から考えるあなたの健康未来」

新潟県と南魚沼市は、県民の健康づくりや健康関連産業に寄与することなどを目的に、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と包括協定を締結し、協定に基づき、南魚沼市において腸内細菌叢の研究を行っています。本セミナーでは、実際に研究の解析を行っている研究者から、腸内細菌叢が人体に及ぼす影響や南魚沼市における研究結果と健康長寿との関連などをわかりやすく紹介します。

講師:国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
ワクチンマテリアルプロジェクト&
腸内環境システムプロジェクト
プロジェクトリーダー 國澤 純 氏

2000年日本学術振興会特別研究員、2001年大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了。2004年から東京大学医科学研究所に勤務、2012年同研究所の准教授となる。2013より年独立行政法人医薬基盤研究所(現・国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所)のプロジェクトリーダー。



○ビジネス会議 A [13:00 ~ 14:15]

主催 (一社)健康ビジネス協議会 ものづくり部会

「災害時の食事に必要なものづくり会議」

被災生活の食事については、日本災害食学会で研究が進められていますが、本会議では、食事をするために必要なモノ・コトについて、災害発生時に食材を調達するための保管のあり方から食べ終わった後の片付けまで、時系列に沿って洗い出し、整理することで、ビジネスの可能性を探ります。

○<第1部>ものづくり部会からの説明

○災害時の食事に使うことができる既存の製品やサービスが有する機能

○災害発生時に食事を確保するために必要なモノ・コト(時系列に沿って説明)

○<第2部>グループ討議

①食材の調達・保管、②食材の調理・加工、③食事実施、

④残飯処理・片付け等のグループで、必要なモノ・コトを洗い出し、整理

今後の成長が見込まれる健康・医療・福祉関連分野で付加価値の高いビジネスが創出されるよう、企業・大学・行政等の関係者が様々な課題の解決に向けた議論や情報発信、異業種間交流を行うことを目的に、平成20年度から開催してきた「うおぬま会議」は、今年度で幕を閉じることとなりました。今回は、名前のとおり魚沼の地で、「次代へ、革新へ、健康ビジネスの未来へ」というテーマのもと、これまでの歩みとこれからの健康ビジネスを展望する内容で開催し、10年にわたる開催成果を健康ビジネスの未来へつなげていきます。

○ビジネス会議B

[13:30 ~ 14:45]

主催 (一社)健康ビジネス協議会 サービス・交流部会

「NWSトップアスリート選定のための公開会議」

(一社)健康ビジネス協議会のサービス・交流部会では、トップアスリートを輩出し続けるための支援システムをつくり、ビジネスを具現化させるため、NWSプロジェクトに取り組んでいます。

今年度は支援対象とするNWSトップアスリートを選定することを目指し、本会議において、選定までの具体的な活動等について話し合います。

- NWSトップアスリートとは
- スケートボードの大会紹介(動画)
- 現在の有望選手 など



○ビジネス会議C

[14:45 ~ 15:45]

主催 (公財)にいがた産業創造機構

「ヘルスケアビジネスの事業化戦略」

将来的な成長有望市場として、国・自治体、民間企業から注目を浴びているヘルスケア市場。しかし、ヘルスケア市場における事業化は様々な課題があり、容易ではありません。本会議では、ヘルスケアビジネスに参入し、成功するためには何が求められるのか、鍵となるIoTやビッグデータの活用事例などを踏まえ、ヘルスケア分野特有の事業化戦略についてご紹介します。

講師:(株)日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門
マネジャー 志水 武史 氏

生命保険業界における調査および保険商品開発業務、(株)日本総合研究所調査部における医療保険制度調査等の業務を経て2003年から現職。専門はヘルスケア、教育、地域活性化。経済産業省や自治体等の事業において、ヘルスケア分野の事業化支援実績を豊富に有する。



○ビジネス会議D

[14:45 ~ 16:00]

主催 食まちうおぬまネットワーク推進協議会

「食でつながる元気なまちづくり」

魚沼市は「食まちうおぬま」をキャッチコピーに、健康づくりや食育だけでなく、地域活性化や産業振興についても「食」をテーマとしてお互いを結び付け、食でつながる元気なまちづくりに取り組んできました。本会議では、これまでの取組と成果の発表を行ないます。

- 適塩レシピ
- 小学生が考案した地産地消弁当
- ごはんに合うおかず等の紹介



○ビジネス会議E

[14:45 ~ 16:00]

主催 (一社)健康ビジネス協議会 食部会

「災害時の食のマネジメント」

おもしろい災害食認証制度の開始から1年。認証制度の概要と活用方法、認証された商品などを紹介します。

また、日本栄養士会が東日本大震災をきっかけに設立した災害支援チーム:JDA-DATの活動事例と、熊本地震及び平成30年7月豪雨での支援基地における特殊栄養食品ステーションの役割について紹介します。

<第1部>認証制度等の紹介
おもしろい災害食認証制度の概要と活用、認証商品に関する説明
<第2部>講演

「災害時の食のマネジメントと要配慮者向け食品の今後の展開
~JDA-DATの活動における特殊栄養食品ステーションを通じて~」
講師:(公社)日本栄養士会 常務理事 下浦 佳之 氏



○パネルディスカッション

[16:15 ~ 17:00]

主催 (一社)健康ビジネス協議会・新潟県

「うおぬまから健康ビジネスの未来へ」

2008年に魚沼地域で始まった「健康ビジネスサミットうおぬま会議」。10年にわたる歩みを振り返りながら、魚沼地域に縁のある企業が、自社の取組や今後の健康ビジネスの展望について、意見を交わします。

<パネリスト>
(株)ブルボン 代表取締役社長 吉田 康 氏
ホリカフーズ(株)代表取締役社長 川井 義博 氏
テーブルマーク(株)魚沼水の郷工場 工場長 安永 勝 氏
マルコメ(株)マーケティング本部マーケティング部 専任部長 須田 信広 氏
<モデレーター>
UBMジャパン(株)ダイエット&ビューティ事業部長 江潮 敦 氏



○レセプション

[17:15 ~ 18:15]

地元食材を活かした料理や地酒などをお楽しみいただけます。

参加費お一人様5,000円

※プログラムの内容は変更される場合があります。

会場

UOSHIN

〒946-0011 新潟県魚沼市小出島71-1 (R17沿い)
 TEL:025-792-0033
 FAX:025-792-1472
<http://www.uoshin.in/index.html>



アクセス

■上越新幹線



■お車



※駐車台数には限りがありますので、できるだけ乗り合わせて、又は、公共交通機関を利用して、ご来場ください。
 ※浦佐駅から会場まではシャトルバスの運行を予定しております。



参加申込方法

下記ホームページ又は FAX でお申込みください。 締切 / 10月17日 [水]

※いただいた情報は、本会議の運営上、必要な範囲内で利用させていただきます。

健康ビジネスサミット

うおぬま会議ホームページ

www.uonuma-conf.jp

うおぬま会議

検索

FAX 申込用紙

新潟県産業労働観光部 産業振興課 新分野育成係

FAX.025-280-5508

(ふりがな) 氏名	住所 (〒 -)
(ふりがな) 所属 (会社等)	電話番号 () -
(ふりがな) 所属 (会社等)	所属部署・役職

参加申込みする会議 ご希望の会議等にチェックを入れてください。

- | | | | |
|--|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 基調講演 | <input type="checkbox"/> ビジネス会議 A | <input type="checkbox"/> ビジネス会議 D | <input type="checkbox"/> ビジネスセミナー |
| <input type="checkbox"/> レセプション
(参加費 5,000 円) | <input type="checkbox"/> ビジネス会議 B | <input type="checkbox"/> ビジネス会議 E | <input type="checkbox"/> 一般向けセミナー |
| | <input type="checkbox"/> ビジネス会議 C | | <input type="checkbox"/> パネルディスカッション |

お問い合わせ | 新潟県産業労働観光部 産業振興課 新分野育成係
 TEL: 025-280-5718 FAX: 025-280-5508
 〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町 4-1

「新潟県産業振興課げんき会」会議開催情報を順次公開します。
<https://www.facebook.com/sangyo.pref.niigata>

■ 後援

経済産業省関東経済産業局、厚生労働省関東信越厚生局、国土交通省北陸信越運輸局、独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部、一般社団法人新潟県商工会議所連合会、新潟県商工会連合会、新潟県中小企業団体中央会、株式会社日本政策金融公庫、株式会社第四銀行、株式会社北越銀行、株式会社大光銀行、新潟大学、長岡技術科学大学、上越教育大学、新潟県立看護大学、新潟県立大学、日本歯科大学新潟生命歯学部、新潟薬科大学、新潟産業大学、新潟経営大学、新潟工科大学、新潟医療福祉大学、国際大学、事業創造大学院大学、北里大学保健衛生専門学院、新潟日报社、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、日本経済新聞社新潟支局、日刊工業新聞社新潟支局、UBMジャパン株式会社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、文化放送、株式会社ニッポン放送、エフエムラジオ新潟、FM PORT 790